

き
ら
め
く
駿
河
台
大
学
を
お
届
け
し
ま
す

vol.250

[スパークル]
Sparkle
Surugadai University News

2025
winter

特集

駿大生が撮る、魅せる、メッツァと飯能の物語

本学とフィンテック グローバル株式会社による産学連携プロジェクトが、2025年6月に始まりました。

新たな“むすび”はnanacafeからはじまる

活動報告 2025年7月～11月

駿大スポーツ #陸上競技部 こばり あきは 小針 陽葉 選手

Circle and Me びーけん! × まつい あい 松井 愛 さん





紹介した動画は
上記のページより
ご覧いただけます

駿河台大学とフィンテック グローバル株式会社による産学連携プロジェクトが、2025年6月に始まりました。
飯能市とメッツァビレッジ、ムーミンバレーパークの魅力をテーマに、学生たちが映像で発信します。
夏に公開した予告篇に続き、豊かな自然と歴史が息づく飯能の文化と北欧の文化の化学反応を様々な切り口で綴る映像作品がクランクインしました。

Sparkle **T**opic

駿大生が撮る、魅せる、メッツァと飯能の物語

01 ティザー篇



予告ムービー

プロジェクトのオープニングとして、「私たちの物語がここから始まる」をテーマに制作したイメージムービー。様々な物語の展開を象徴する映像として、撮影、演出、編集に臨み、現時点で最高のクオリティを追求しました。

02 デート篇



飯能デートプラン添削

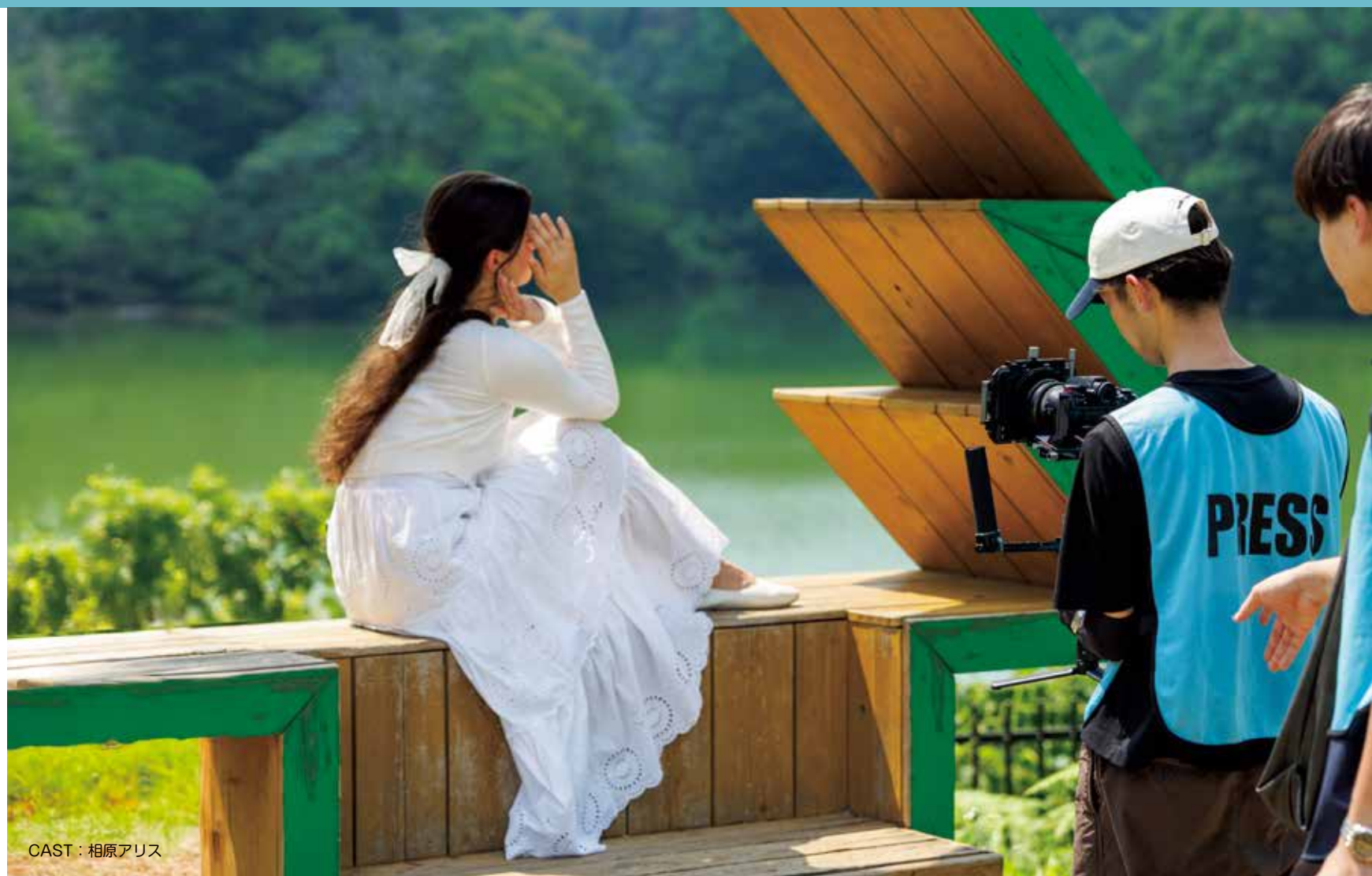
男子大学生たちが考えた飯能でのデートプランを実際に再現し、その様子を女子学生が観て、率直にコメントする作品です。学生ならではのバラエティ要素を交えながら、飯能市内のロケ地の魅力がリアルに伝わるよう構成しました。

03 コーヒー篇



香りが導く、2つの居場所

メッツァにある北欧のコーヒー店、飯能商店街にある老舗の珈琲店。それぞれの想いやこだわり、大切にしているものを語っていただきながら、多様な価値観、共通するコーヒーへの思い入れを感じさせる作品を目指しました。



CAST：相原アリス

メンバーとともに企画・撮影・編集と、制作を一貫して担当しました。今回の制作は演者経験のない学生が集まったの撮影であるため、メンバーの個性が活きるような企画にしました。アニメーションや実写にとらわれない高田ゼミらしく、様々なグラフィックスを用いています。楽しんでいただけたら嬉しいです。



デート篇監督
メディア情報学部 4年
はやしもと かいと
林元 海斗



コーヒー篇監督
メディア情報学部 4年
かすや たいよう
糟谷 太陽



メディア情報学部 助教
たかだ まさひろ
高田 昌裕

各企画が動き始めるまでは教員側も学生メンバー側も共に頭を悩ませる瞬間もありました。しかし今は本プロジェクトの大きな特徴である「学生主体で企画を考える」という特徴がうまく作用してきていると実感しています。これから3本目、4本目と引き続き制作は行われていきますが、さらに良い方向に進んでいくように学生をサポートしていく所存です。

大学でしか学べない理論や体系があります。一方で大学では学びにくい現場の緊張感や求められる臨機応変で柔軟な対応といった経験があります。この産学連携プロジェクトは、そんな学びと実践を繋ぐ挑戦です。学生たちの若い感性と試行錯誤、それを映像作品という成果物に落とし込んでいく過程を見守り、時に手助けしていきます。



メディア情報学部 教授
あさひら かずひこ
斎賀 和彦

飯能の豊かな丘陵地帯を背にたつ駿河台大学と飯能宮沢湖のほとりに広がる小さな北欧のメッツァビレッジとムーミンバレーパーク。両者が手を組んで開始したプロジェクトが、「映像で紡ぐ学生目線のメッツァ飯能物語」。この地域の持つ豊かな自然と文化をテーマにメディア情報学部の学生たちが、飯能とメッツァの魅力を見直し、再発見するプロジェクト映像を複数、制作しています。
駿輝祭では夏に公開したティザー（予告）ムービーに加え、完成した本篇第1作、第2作を中間発表として上映、解説。企業広報の方にもご来場いただき、映像制作や広報の仕事に携わる方々からも高い評価をいただきました。年度内に更に4本の制作が予定されており、学生たちは自分たちの学ぶ土地である飯能、そしてメッツァの新しい魅力を引き出す動画制作にプレッシャーと楽しさの両方を感じつつ取り組んでいます。



Sparkle CROSSTALK

新たな“むすび”は nanacafe から始まる

学生たちがゼロからつくったカフェプロジェクト。
数々の課題に直面しながらも、ついにオープンを迎えました。
「nanacafe」に携わる二人の学生の、その背景に迫りました。

はじめに「nanacafe」のメンバーを代表から願います。

峯田 「nanacafe」は、「一杯の中に、新たな“むすび”を」というコンセプトのもと、一杯のコーヒーを通じて、学生をはじめ、教職員や地域の方々など、多様な人々をむすぶコミュニティを創造します。地域とのつながりを大切にしてお



上げる、温もりのある空間を目指しています。

お二人は、なぜこのプロジェクトに参加しようと思ったのですか。

峯田 幼稚園の頃、将来の夢に「経営者になりたい！」と書いてから、それを目標に多くの活動に努めてきました。その折に、学内掲示板でプロジェクトの募集があり、「大学生のうちに自分の目標を叶えられるチャンスだ！」と思い立ち、応募をしたことがきっかけです。今はサークルとして活動していますが、将来的に法人化して活躍できるような組織にしたいと考えています。

り、オープニングイベントやウッドデッキの設置、お菓子の製造やコーヒー豆の提供など、地域の方々から多大なご協力をいただいています。コーヒー豆については、豆の厳選からこだわり、品種ごとに焙煎やドリップの方法を変えています。ご注文いただく全てのコーヒーは、学生スタッフがハンドドリップで一つ一つ抽出したものです。一杯のコーヒーをきっかけに、学生と地域が一体となって創り

木村 私がこのプロジェクトに参加しようと思ったきっかけは、学生が主体となって運営している点に大きな魅力を感じたからです。最初は友人が関心を持ち、一緒に説明会に参加したことが、このプロジェクトとの出会いでした。説明会では、「nanacafe」の活動内容や目的について詳しく伺いました。その中で、カフェの営業に加え、備品の発注や仕入れ先と

のやり取り、Instagramを活用した広報など、運営のほとんどを学生が担うことも知りました。職員からの支援を受けながらも、自分たちで工夫し挑戦している姿勢に強く心を打たれ、私もその一員として関わりたいと思い、参加を決めました。

代表の峯田さんにお伺いします。
「nanacafe」は、あなたにとってどのような「場所」ですか？

峯田 私にとって「nanacafe」は、私自身を成長させてくれた場所であり、たくさんの人たちとの“むすび”を作ってくれた場所でもあります。「nanacafe」は、一緒に活動するメンバーや学生、教職員はもちろん、携わっていただいた地域企業の方々や足を運んでくださったお客様など、挙げればキリがないほど、多くの皆様の支えのもとに成り立っています。活動するなかで多くのミスをしましたし、大変なことも経験しました。それでも変わらずに「nanacafe」を応援していただき、時には引っぱっていたきま



た。その期待に応えようと、常により良いカフェを目指してメンバー全員で努力を重ねています。私にとって「nanacafe」は、こうした温かい人たちの“むすび”をつないでくれた、かけがえのない「場所」です。私自身、ここまで成長できたのは、紛れもなく「nanacafe」のおかげだと感じています。



みねた りゅうが
峯田 隆雅

法学部4年

駿大カフェプロジェクト「nanacafe」代表

きむら まりい
木村 真璃依

心理学部2年

駿大カフェプロジェクト「nanacafe」企画営業スタッフ

木村さんは、スタッフとして「nanacafe」に関わるなかで、嬉しかったことや、やりがいを感じることはありましたか。

木村 私がやりがいを感じる瞬間は、お客様から商品の感想をいただいたときです。「この前に食べたマドレーヌがおいしかった」など、直接お声がけいただけることが何よりも嬉しく、励みになっています。また、何度も足を運んでくださり、毎回同じ商品をご購入いただいているお客様を見ると、その商品を本当に気



に入ってくださいているのだと実感し、心から嬉しくなります。そうした場面に会おうたびに、「nanacafe」の活動に携わっていてよかったと感じます。お客様が何気なくかけてくださる言葉が、新しいメニューを考えるヒントにもなり、日々の運営のなかで大きなやりがいと楽しさを感じる大切なきっかけとなっています。

お二人は、「nanacafe」に携わったことで、「自身がどのように成長したと感じますか？」

木村 私は「nanacafe」に携わるなかで、これまで以上に主体的に行動する力と先を見通して考える力が身についたと感じています。使用する備品の在庫を確認し、営業に支障が出ないように発注を行うなど、プロジェクトメンバーが円滑に運営できるように意識して行動するようになりました。活動当初は在庫確認を怠ってしまい、発注が間に合わず、メンバーに助けてもらうこともありましたが、その経験から、事前の準備や計画の重要性を

学ぶことができました。現在では備品の発注に加えて、季節ごとのイベント企画にも携わり、立案などを自ら行うようになりました。自分たちの力でカフェを運営する経験から得た責任感と達成感が私の成長へとつながり、主体的に行動する力と先を見通す力が、より一層養われたと感じています。



からは、3ヶ月も経たないうちに、計画性のなさによるミスが、全くと言っていいほど無くなり、自身の成長と経験することのありがたみを大きく実感しました。

これまでの「nanacafe」での経験を糧に、お二人が今後挑戦したいことを教えてください。

峯田 大学卒業後は社会人として「社会」という大きな領域に踏み込んでいくこととなります。正直なところ、十数年

のため人のためになれるような事業を考えて起業したいと思っています。その時はぜひ応援をよろしくお願いします。

木村 これまでの「nanacafe」で培った主体性を生かして、より多くの方に「nanacafe」と地域の魅力が伝わるように、地域とのコラボ企画など、新しい取り組みに挑戦していきたいと考えています。ありがたいことに、学生や職員の方々と関わる機会が増え、「nanacafe」を知ってくださる方が少しずつ増えていることを、日々の営業を通して実感しています。私たちが暮らすこの町には、まだ知られていない素敵なものと魅力がたくさんあります。そうした地域の良さを多くの方に知っていただけるよう、「nanacafe」をきっかけに地域と連携しながら、新たな企画や発信に取り組んでいきたいと考えています。これまで支えてくださった学生や職員の方々、地域の皆様への感謝を忘れずに、「nanacafe」と地域がさらに多くの人に愛される場所になるよう、自分にできることをひとつずつ形にしていきたいです。



続いた学生生活から、突然立派な社会人像を求められるので、やはり怖いですが、なにより「社会」で自分の人生の目標を達成できるのか不安です。ただ、「nanacafe」での活動を経て、ほんの少し希望が見えたと感じています。リーダーシップやコミュニケーション能力、実行力やチームワークを「nanacafe」でたくさん学んできたという自信が、今の私自身を動かしてくれていると思います。この経験と自信から、これからは世





公式HP



公式X

その他の活動、最新情報は大学HPやXで更新しています。
ぜひご覧ください。

駿河台大学の活動報告 *activity report*



瑞穂町と包括連携協定を締結

2025年10月31日

駿河台大学（大森一宏学長）と瑞穂町（山崎栄町長）は、活力ある地域社会の形成・発展とそのための人材育成に寄与することを目的として、包括連携協定を締結しました。今後は地域の活性化及び産業の振興、教育・文化・生涯学習・スポーツの振興、健康・福祉の増進、人材育成、安心安全なまちづくり、環境の保全・創造、そしてその他、町と大学が協議して必要と認める事項について包括的な連携を深めていきます。



青梅信用金庫と産学連携協定を締結

2025年11月7日

駿河台大学（大森一宏学長）と青梅信用金庫（平岡治房理事長）は、地域社会の発展への貢献を目指し、相互に協力して産学連携活動を推進するため、産学連携協定を締結しました。今後は地域社会・地域企業の発展への貢献、地域の経済情報・動向等の情報交換及び発信、セミナー開催等の人材育成、そしてその他、産学連携活動に寄与する事項の推進について、提携・協力を深めていきます。

教育振興資金募金 ご支援のお願い

日頃より本学の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。
皆様からの温かいご厚志は、教育研究、スポーツ振興、学生支援などのさまざまな分野で活用させていただいております。
今後も、より良い教育環境の実現に向けて努めてまいります。引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

インターネットによるお申込み

本学ホームページから専用サイトを通じてお申込みください。

駿河台大学 寄付

検索

<https://www.surugadai.ac.jp/donation/>


振込用紙によるお申込み

お電話またはメールにて、「寄付振込用紙希望」と明示のうえ、お名前とご住所をお知らせください。
寄付専用の振込用紙をお送りさせていただきます。

●電話 042-972-1191（財務課直通） ●メール zaimu@surugadai.ac.jp

本学へのご寄付は、所得税制上の優遇措置を受けることができます。

確定申告を行うことで寄付金控除により減税となります。詳細は、上記ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先

駿河台大学 財務課

☎ 042-972-1191



2025年度学生防犯リーダー活動 聖望学園高校での講演会

2025年7月2日

学生防犯リーダー活動は、2012年締結の本学・飯能市・飯能警察署による「飯能市における大学生安全協定」に基づき、各所と連携し、本学学生及び地域の防犯・啓発を行うボランティア活動です。低年齢化する大麻乱用対策として、今回の講演会ではクイズやロールプレイを通じ実践的な知識を高校生に啓発しました。活動の意義を実感した学生は、地域住民の防犯意識を高めることの大切さを感じ、今後も継続的に貢献していく決意をしました。



大阪・関西万博 キッズアートプロジェクト参加

2025年8月8日

メディア情報学部の城井光広教授とゼミ生5名が、病院の先生が率いるキッズアートプロジェクトと連携したワークショップに参加しました。万博のテーマ「いのち」を感じるこの企画では、子どもたちが木片などに絵を描き、全国8つの病院の子どもたちともオンラインで繋ぎながら、万博の楽しさを共有しました。学生は「予想以上に海外の参加者も多く、幅広い世代と関わった貴重な経験になった」と感想を述べました。



駅伝部が西武バス株式会社とスポンサー契約を締結

2025年9月25日

駅伝部は、本学のスクールバス運行で協力関係にある西武バス株式会社（埼玉県所沢市、塚田正敏代表取締役社長）と、新たにスポンサー契約を締結しました。これにより、箱根駅伝初出場の時からご支援をいただいている飯能信用金庫に加え、西武バス株式会社のサポートも得て、さらなる飛躍を目指します。駅伝部の後藤宜広監督は「地元を盛り上げ、多くの方々に応援いただけるチームを目指し、感謝の気持ちをもって活動していきます」と抱負を述べました。



駅伝部女子第43回全日本大学女子駅伝初出場！

2025年10月26日

駅伝部女子は、第31回関東大学女子駅伝対校選手権大会（千葉県印西市、6区間）で9位に入賞し、創部5年目にして初の全国大会となる第43回全日本大学女子駅伝（宮城県仙台市、6区間）へ出場しました。25大学が出場する中、皆さまのご声援に支えられ、初出場ながら16位という結果を収めました。今回の経験を糧に、全日本大学女子選抜駅伝競走（富士山女子駅伝）への出場を目指してチーム一丸で取り組んでまいります。



スポーツ科学部 1年 小針 あきは 選手

高校3年次には、3つの全国大会を総なめにし、今年の9月末に行われた「香港2025 U20 東アジア陸上競技選手権大会」では、見事金メダルを獲得した陸上界期待の選手、小針選手に大会の感想や今後の目標について伺った。



天性のセンスを武器に

6歳年上の姉がいる小針選手は、物心ついたときから姉が陸上競技をする様子を近くで見えており、自身も両親が監督を務めるクラブチームに6歳から所属し、必然的に陸上競技をする環境下で育ったという。初めは100mから始めて、幅跳び、200mと種目も多岐に渡り、現在に至るまで競技を続けている。高校3年次には全国高等学校総合体育大会、U20日本陸上競技選手権大会、国民スポーツ大会の3つの全国大会で100m1位に輝いた成績を持ち、今年駿河台大学へ入学した。

自分の気持ちを伝え、一体感のあるチームへ

駿河台大学に入学を決めたきっかけは、駿河台大学に通っていた姉が陸上競技部で活躍していたことから、陸上競技の大会を見学する機会があったこと。陸上競技部の邑木総監督とも大会の会場で何度か会っており、指導の様子や、練習の雰囲気などに惹かれたという。いくつかの大学からスカウトもあったそうだが、駿河台大学で切磋琢磨しながら自分の技術も向上させたいと思い、入学を決めた。陸上競技部に入部してからは、監督やチームメイトとの信頼関係を大事に

しており、「自分の感覚を嘘偽りなく表現することで、周りを巻き込みながら練習に励んでいる。」

香港2025 U20 東アジア陸上競技選手権大会に出場して

国際大会は高校生以来2度目の出場だった。日本の大会とは会場の作りや観客の盛り上がり方も違うため、また違った緊張感に包まれたという。また、大会前に怪我をしていたこともあり、当日までは不安を抱えていたが、競技人生が長い小針選手は怪我との付き合い方も熟知しているため、走り方を変え、調整を行った。結果は200mと4x100mリレーで見事1位の二冠達成。小針選手としては、自己ベストよりも0.5秒遅くなっ

法学の新たな扉を開く

侍が見た、現代の日本

法学部の学びを、もっと面白く、もっと身近に。その想いから、法学部がInstagramを活用した新たな教育コンテンツの配信を始めました。

テーマは「タイムスリップ侍、現代の法を学ぶ」。侍から見た現代の日本はどう映るのでしょうか。そんなユニークな視点から「法」の面白さを発信します。侍に扮した法学部の松平光徳准教授が、私たちの暮らしに欠かせない法律の数々を、笑いを交えて分かりやすく解説。動画を通して、法学の新たな魅力に触れてみませんか。

侍が驚いた現代の法律ベスト③



「え？刀持っちゃダメなの？」



「え？勝手に貼ったらダメなの？」



「働けるのに働かないのはダメなの？」

「法律は、決して難しいだけのものではなく、私たちの生活を守り、社会を円滑にするための身近なルールであることを、学生にもっと楽しみながら学んでほしい」という法学部教員の熱い想いから生まれたこの企画。

「専門的な内容も、切り口一つで面白く学べるはず。動画をきっかけに、少しでも法学に興味を持ってもらえたら嬉しいですね。同じ法でも、時代が変わればまったく違ってきます。捕まってはじめてわかりました(笑)」と語る松平准教授。そのユーモアあふれる人柄と、学生を想う真摯な姿勢が、今回のユニークな動画を生み出すきっかけとなりました。

侍を演じたのは…

まつだいら みつり
法学部 松平 光徳 准教授
専門分野：新領域法学
(キーワード：知的財産法)
担当科目：知的財産法



本編は、法学部のInstagramからチェック！

Circle and Me

学業とサークル活動を両立して成長している
学生を紹介します。



「びーけん！」× ^{まつい あい}松井 愛さん [心理学部・3年]

「びーけん！」に所属したきっかけ

幼少期からずっと音楽が好きで、「自分でも演奏してみたい!」と思っていたことが一番の理由です。高校生の頃から軽音部に所属していたのですが、部員が少なく、設備も整っていなかったため、満足な活動ができませんでした。思い切り演奏したい気持ちで燃っていたこともあり、入学時のサークル紹介で軽音楽サークルの「びーけん!」を知り、すぐに見学に行きました。そこで話しかけてくれた先輩方の雰囲気がとてもよかったことと、楽しそうだなという期待感で所属を決めました。所属当初のまだ友人が少なかった頃に、先輩方に声をかけてもらい、ついに、長年恋焦がれたライブをすることができました。わからないことを優しく教えてもらったことや、サークル終わりに食事に連れて行っていたいたことは、今でも良い思い出です。

「びーけん!」の活動について

活動日は火・木・金曜日の16時半〜20時までです。軽音楽サークルのため、各自バンド毎に決めた曲を練習したり、自分のやってみたい曲を練習したりと様々です。学内で行う新入生歓迎ライブや、夏頃に行う梅雨ライブ、駿輝祭での屋外ライブや12月のクリスマスライブなどがあります。活動に対して厳しさや高い

完成度を求めるというのはほとんどなく、みんなで音楽を楽しむことを何よりも大切にしています。駿河台大学には軽音サークルがいくつかありますが、初心者にも門戸が開かれていることが「びーけん!」の良さだと思います。

活動の面白さやサークルへの想い

みんなで曲を合わせる瞬間が一番楽しいです。私はサークルの代表も務めているので、団体のライブ運営を成功させたときは達成感があります。ライブ終わりに、演奏を聴いてくれた方から声をかけてもらえたりと、自分たちの音楽が誰かに届いたと感じた瞬間の喜びは、何にも代えがたいです。サークルのみんなには「びーけん!」での活動のなかで、そんな喜びをたくさん感じてほしいです。

今後の展望について

漠然としているのですが、人から頼られる人になりたいと思っています。自分がこれまで多くの人に支えられてきたように、周囲を安心させる存在になることが、今後の目標です。音楽はたぶん一生続けます。ライブをやり切ったときの達成感、自分たちの音楽が誰かに届いたときの感動を、これからも味わいたいし、私たちの音楽に関わってくれた全ての方々に、ぜひ味わってほしいと思います。